



第20回
全国トラック運送事業者大会
金沢開催

平成27年10月1日(木) 石川県金沢市「石川県立音楽堂」

第20回全国トラック運送事業者大会実行委員会
(公社)全日本トラック協会 常務理事 山崎 薫
// 総務部係長 長嶋 英一
(公社)新潟県トラック協会 専務理事 浅間 博
(一社)石川県トラック協会 専務理事 北村 誠
// 事務局長 天田 敏勝
// 適正化事業課長 奥村 和秀

Contents

目次

- 3 会長挨拶
- 4 祝辞
- 5 祝電
- 8 全体会議
- 10 第1分科会
- 12 第2分科会
- 14 記念講演
- 15 全体会議
- 18 懇親会
- 20 トラックの森

会長挨拶



一般社団法人石川県トラック協会 会長 谷本 義治

平素は、当協会の運営につきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、去る10月1日に北陸新幹線開業に沸くここの金沢の地で、全国各地から約1,400名余の会員事業者が参加して第20回全国トラック運送事業者大会が開催されました。

当協会では、開催地として全国からの参加者を万全の態勢でお迎えできるよう1年前より所要の準備を進め、会員の皆様をはじめ関係各位のお力添えにより大会を盛会裡に終了することができました。大会は、国民生活と日本経済を支えている我々トラック運送業界が、山積する諸課題の解決に向けて一致結束する絶好の機会となり、その後の懇親会で披露された素囃子や御陣乗太鼓をはじめとする石川県の伝統芸能が参加者の喝采を博するなど、日本の文化が美しく息づくこの地の魅力を発信することもできました。

また、大会を通じて、国民生活に必要な安全で安心な輸送サービスの提供や災害時には被災地等へ救援物資を緊急輸送するなど我々トラック運送業界に負託された社会的使命の重要性を再確認しました。引き続き関係機関と連携し、鋭意取り組んでまいりますので、今後も会員各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに大会の開催にあたり、ご支援ご協力をいただきました関係各位に衷心よりお礼申し上げます。



【記念品】
加賀友禅二巾風呂敷

祝辞

業界の抱える諸課題の 解決目指し全身全霊を傾ける



国土交通大臣 太田 昭宏

(藤井直樹自動車局長代読)

現在、政府は持続的な経済成長を目指して「アベノミクス」

を展開していますが、その中で荷動きが回復基調をみせ、また軽油価格も一時期に比べれば低い水準で推移しています。一方、少子高齢化の大きな流れの中で、ドライバー不足への対応が喫緊の課題になっていると認識しています。

国土交通省はこのような状況をしっかりと踏まえつつ、トラック輸送における取引環境や労働時間の改善、新たに導入される準中型免許等を活用した若者と女性の就労促進、燃費の良い環境対応車の購入支援、車体課税の見直しにおける適切な対応等、トラック業界の抱える諸課題の解決に向けて全力で取り組んでまいります。皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

我が国経済の活発化へ トラック運送事業の発展に期待



石川県知事 谷本 正憲

皆様方におかれましては、日頃から貨物輸送を通して地域経済を下支えされている

ことはもとより、交通安全、環境対策、さらには災害時の重要なライフラインとして安全・安心の確保にも大きくご貢献いただいております。物流は、経済活動にとつていわば血液といえるものであります。物流が滞つては経済も活発化しません。トラック運送事業は国内の貨物輸送の実に9割を担っていたらと承知しております。まさに、トラック運送事業の皆様は我が国の経済活動に欠くことのできない大事な存在です。

本日の事業者大会では皆様方の活発な意見交換が行われたと伺っております。ぜひ、ここ石川の地で大きな成果を上げていただき、今後我が国経済、さらには国民の生活を支えていくという気概をもって、より良い輸送サービスの提供にご尽力いただきたいと思います。

祝電

公益社団法人全日本トラック協会第20回全国トラック運送事業者大会のご盛会を心よりお慶び申し上げます。

トラック輸送は、国内の貨物輸送量の9割を担うライフラインであり、経済の好循環・地方創生を実現していく上で極めて重要な産業であると考えます。

しかし、事業者の99%は中小零細で弱い立場にあることも承知しております。わたしたちは喫緊の課題である取引環境・長時間労働の改善に向け先頭に立つて取り組み、トラック運送業の生産性向上を推し進めてまいり所存です。

この大会が実り多きものとなり、トラック運送業界が益々繁栄することを祈念するとともに、全日本トラック協会のご発展と本日ご列席の皆様方のご健勝とご隆盛を心よりお祈り申し上げます。

平成27年10月1日

内閣総理大臣 自由民主党総裁

安倍 晋二

第20回全国トラック運送事業者大会の開催を心よりお祝い申し上げます。

トラック運送事業は、我が国の産業の発展、国民生活の向上に大きく貢献しているところで

す。特に、災害発生時には、トラックの機動性を活かして、緊急支援物資をいち早く被災地に輸送するなど、重要な役割を果たしておられることに、深く敬意を表します。

また、トラック協会におかれましては、運輸事業振興助成交付金制度の趣旨を踏まえ、トラックの安全運行の確保やサービスの向上、近年の課題である環境対策等の諸事業に、尽力いただいております。

今後とも、トラック運送事業が、一層ご発展されますことを心から祈念いたします。

平成27年10月1日

総務大臣

高市 早苗

公益社団法人全日本トラック協会第20回全国トラック運送事業者大会の開催を心より心よりお祝い申し上げます。

トラック運送業界の皆様方におかれましては、日頃より自由民主党に絶大なご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

景気は回復しつつありますが、事業者の皆様を取り巻く経営環境は、依然として大変厳しいものがあります。

自由民主党トラック輸送振興議員連盟は、一丸となり、安定的な輸送サービスを維持できるよう全力で、長時間労働の縮減や自動車関係諸税の簡素化・軽減並びに高速道路料金における大口・多頻度割引最大50%の恒久化をはじめとする各種対策の実現に全力を尽くすことをお誓いいたします。

今後とも、全日本トラック協会の一層のご発展とご参会の皆様のご繁栄、ご多幸を祈念いたします。

平成27年10月1日

自由民主党トラック輸送振興議員連盟会長

細田 博之

石川労働局労働基準部長	北代 昌巳 様
北陸信越運輸局自動車交通部長	斉藤 克明 様
北陸信越運輸局自動車技術安全部長	岩野 裕功 様
北陸信越運輸局自動車交通部貨物課長	青木 一郎 様
北陸信越運輸局石川運輸支局長	林 伸治 様
北陸信越運輸局石川運輸支局首席運輸企画専門官	猿谷 克幸 様
石川県新幹線・交通政策課長	内田 滋一 様
日本貨物運送協同組合連合会会長	古屋 芳彦 様
日本貨物運送協同組合連合会専務理事	村田 省蔵 様

国土交通省自動車局長	藤井 直樹 様
石川県知事	谷本 正憲 様
北陸信越運輸局長	江角 直樹 様
石川県議会議長	中村 勲 様
金沢市長	山野 之義 様
石川県警察本部交通部長	宮本 孝司 様
国土交通省自動車局貨物課長	菟川 直也 様
石川労働局長	中島 理章 様



全国から1,400人余の
 会員事業者が参加
 ～第20回記念大会が金沢で開催～

時間	項目
12:10～ 13:10	ウェルカムコンサート
13:30～ 14:00	全体会議 ①開会 ②開催地ブロック協会会長挨拶 ③全日本トラック協会会長挨拶 ④議長団選出 ⑤議長挨拶 ⑥分科会編成(2分科会)
14:10～ 15:30	第1分科会 テーマ「トラック業界の 交通安全対策の推進について」 第2分科会 テーマ「トラック業界の 人材確保及び育成について」
15:40～ 16:40	記念講演会 テーマ「おもてなしの心で世界をねらう」
16:50～ 17:40	全体会議 ①再開 ②大会決議 ③来賓挨拶 ④来賓紹介・祝電披露 ⑤次回大会開催地ブロック協会挨拶 ⑥ガンパローコール ⑦閉会の辞
18:00～ 20:00	懇親会 ①開宴 ②素囃子 ③歓迎挨拶 ④乾杯 ⑤来賓紹介 ⑥歓談 ⑦アトラクション ⑧閉宴挨拶 ⑨閉宴



全国各地から多数の会員が来県



ミス百万石と
 ミス加賀友禪がお出迎え

Welcome Concert

ウェルカムコンサート



ふくもと まり
 福本 茉莉

大会開会を前に行われたパイプオルガン奏者の福本茉莉さんによるウェルカムコンサートでは、福本さんが奏でる美しく荘厳な音色が聴く者を魅了しました。



全体会議



司会を務める浅間博専務理事
(北陸信越ブロックトラック協会)

【総司会】北陸信越ブロックトラック協会	専務理事	浅間 博
〈挨拶〉北陸信越ブロックトラック協会	会 長	小林 和男
〈挨拶〉公益社団法人全日本トラック協会	会 長	星野 良三
〈議長〉公益社団法人新潟県トラック協会	会 長	小林 和男
〈副議長〉公益社団法人長野県トラック協会	会 長	岩下 勝美
〈副議長〉一般社団法人富山県トラック協会	会 長	綿貴 勝介
〈副議長〉一般社団法人石川県トラック協会	会 長	谷本 義治



全体会議では、開催地ブロックを代表して、北陸信越ブロックトラック協会の小林和男会長（新潟県トラック協会）が「第20回目となる記念の事業者大会が、本年3月の北陸新幹線開業で賑わう絶好の時期に、この金沢の地で開催されるという機会に恵まれ、大変感謝している」と開会のあいさつをし、続いて、主催者を代表して全日本トラック協会の星野良三会長が「長時間労働の縮減や高速道路料金の負担軽減、規

制緩和の見直しなどの諸課題に、トラック運送業界が一致結束する絶好の機会。業界の明るい未来を自らの手で切り開くため、業界の叡智と総力を結集し、ともに頑張っていこう」とあいさつしました。その後、小林会長を議長とする議長団を選出。副議長には、岩下勝美長野県トラック協会会長、綿貴勝介富山県トラック協会会長、谷本義治石川県トラック協会会長をそれぞれ選出しました。

業界の明るい未来、自らの手で

公益社団法人全日本トラック協会会長 星野 良三



我が国経済は、アベノミクス効果による円安の定着と企業業績の回復、中小企業への波及とベースアップによる個人消費の回復、これに原油価格の値下がりも加わり久方ぶりに活況を呈することが期待される。

一方、トラック運送業界をみると、ドライバー不足に加え、労働時間規制強化による長距離輸送からの撤退等により、運賃の高止まり傾向が続いているが、加えて、軽油価格の低下により利益率の改善が見込まれる。このような中、今国会に労働基準法改正案が提出されたことを契機に、国土交通省と厚生労働省の指導により、中央と47都道府県の全てに「トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会」が設置され、ドライバーの長時間労働削減への取り組みが開始された。手待ち時間の削減方策や附帯業務の有償化方策等を実現すべく、荷主のご協力を得ながら法施行時まで、トラック協会の総力を挙げて取り組んでいきたい。

た茨城県トラック協会をはじめとする隣接県のトラック協会は、被災地への緊急物資輸送等を迅速に行い、ライフラインの確保にあたらした。最近では、各地で火山活動が活発化し、噴火警戒レベルが引き上げられ予断を許さない状況となっている。今後ますます、大規模災害発生時における我々トラック運送業界の緊急輸送体制の確立が急務となっている。

本日の事業者大会は、長時間労働の縮減や高速道路料金、規制緩和の見直しなどの諸課題に、トラック運送業界が一丸となって積極的に取り組んでいくために、一致結束する絶好の機会である。トラック運送業界の明るい未来を自らの手で切り開くため、業界の叡智と総力を結集し、ともに頑張っていきたい。

課題解決に向けて一歩でも前進を

北陸信越ブロックトラック協会会長 小林 和男



地元ブロックを代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、全国各地から約1,400名の会員事業者の皆様にご参加をいただき、誠にありがとうございます。北陸信越ブロックトラック協会、同心より歓迎申し上げます。

第20回目の記念の事業者大会が、新幹線の開通でにぎわうこの金沢の地で開催されることとなり、またとない機会に恵まれたことに大変感謝しております。

私ども北陸信越ブロックトラック協会では、万全の体制で全国の皆様をお迎えできるよう1年以上も前から準備を進めてまいりました。小さいブロックではありますが、全国からお越しの皆様にご満足いただけるよう一杯おもてなしをさせていただきます。

さて、昨今の経済動向を見ますと、企業業績の回復を背景に日経平均株価も2万円台を回復するなど、上半期は景気回復の兆しが見られるようになりましたが、夏場に入り中国経済の減速による株価の下落や為替相場の大

幅な変動など、今後の景気への影響が懸念されます。私どもトラック運送業界においても、事故防止・環境対策、人材確保などコスト増が続く中ではありますが、一部では運賃・料金に上昇基調が見られるなど明るい兆しも見られるようになっています。

また、このたび「トラック輸送における取引環境改善協議会」が中央と47都道府県全てで開催され、各地で活発な意見交換が行われました。今後は、より具体的な議論に踏み込んでいかなければなりません。荷主側から取引環境改善の提案を受られるような実効性のある協議会にしなければなりません。

そのためには、業界全体の結束が必要不可欠であります。本事業者大会を通じ、山積する業界の諸課題に対して、全国の事業者が力を合わせて取り組み、広く荷主や一般社会にもトラック運送業界の窮状を周知するとともに、課題解決に向けて歩でも前進できればと考えています。

この後、テーマごとの分科会、記念講演会などもございますが、是非、大会終了後の明日も観光やゴルフなどにお出かけいただき、日頃の疲れを癒して、お帰りのだけと思っております。

結びになりますが、本日ご参加の皆様方の益々のご健勝と、トラック運送業界の健全な発展を心より祈念を申し上げ、歓迎の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございます。

小林北陸信越ブロックトラック協会会長
(右から2番目)を議長とする議長団が選出



一方、8月19日には、自由民主党トラック輸送振興議員連盟の幹部会において、大口・多頻度割引50%の恒久化等高速道路料金の負担軽減や長時間労働抑制のための諸対策に係る補助制度の充実について訴えるなど、トラック運送業界が直面する諸課題について、要望を行ったところだが、年末にかけてさらに活動を強化していく。また、9月10日に発生した関東・東北豪雨により、各地で甚大な被害が発生した。自治体からの要請を受け

第1分科会

テーマ トラック業界の交通安全対策の推進に向けて

全体会議を中断して開かれた分科会では、「トラック業界の交通安全対策の推進について」をテーマに第1分科会が行われました。



コーディネーター
(株)プロデキューブ 代表取締役
高柳 勝二

社内ルールの設定・教育は ドライバーへの愛情表現

悲惨な交通事故を繰り返さないためには、事故を防止するための社内ルールを策定することが重要です。「事故を撲滅したい」という経営者の熱い思いを管理者に伝え、ドライバーに広げて思いを共有化し、他社よりも細かい社内ルールを取り決めて、他社よりも厳しく取り組むことで、常に安全を優先する判断や行動が習慣になります。

安全への熱意と、教育の工夫と継続こそが、自社の事業継続はもたらぬこと、大切な社員の人生や家族を守る「最大の福利厚生活動」に繋がると思えるでしょう。

今回は、独自の社内ルールにこだわり、安全教育を積極的に実施しておられる各社様に、それぞれの活動事例をご紹介します。



パネリスト(プロフィール)

(株)円谷運送店 代表取締役社長 円谷 義広
社/福島県郡山市喜久田町2-28
本 資 本 金/7,000万円
従 業 員 数/164人
設 立/昭和38年 車 両 数/120台

(有)仲幸運輸梱包 代表取締役社長 田島 秀克
社/埼玉県戸田市笹目1-22-25
本 資 本 金/650万円
従 業 員 数/43人
設 立/昭和59年 車 両 数/41台

(株)つばめ急便 代表取締役社長 石原 修
社/大阪府大阪市北区中津6-8-36
本 資 本 金/9,900万円
従 業 員 数/304人
設 立/昭和42年 車 両 数/173台

「全社員参加型」で安全対策強化を図る

(株)円谷運送店 総務部長(福島県)

樋口 達男



当社では、様々な対策を推進するにあたって「全社員参加型」で行っています。安全面と品質面で毎月重点項目をそれぞれ1つずつ決め、「二人はみんなのために、みんなは一人のために」をスローガンに、他者への奉仕の心をそれぞれの社員が大切にしながら、目標の達成に向けて社員が一丸となって取り組んでいます。

安全面に関する対策としては、まず「バック時のハザードランプ点滅」に積極的に取り組んでいます。かつては後退前に後方確認を怠っていたドライバーが少なくなかったため、バック時の事故が多く発生していました。そこで、後方確認を怠った場合の危険性を社員に伝えるため、研修などでトラックの死角を社員全員で改めて確認し、後方確認の方法について社内ルールを決定しました。ハザードランプを点滅させることで、車の周囲の人たちに対して注意を喚起することが出来ます。これは営業車、自家用車を問わず実施しています。全社員参加型なので、我々事務職は自家用車で実施しており、これにより全社員が共通の認識で安全対策に取り組むようになりました。

また、「停車後の輪止めの徹底」も推進しています。かつては輪止めの不使用や、適切な輪止めがされなかったことによる事故も発生していました。そこで、社内で輪止めに関する具体的なルールを定め、取り付け忘れや不適切な取り付けに起因する事故の防止に努めています。さらに、赤信号等で停車した際の車間

距離保持も徹底しています。停車時にも余裕のある車間距離を保つことで、前車への追突を防ぐことが出来ます。また、大型トラックが必ず以上に接近して停車すると、前車のドライバーに威圧感や圧迫感を与えてしまい、それにより運送会社のイメージダウンにも繋がりがかねません。

そして、当社のトラックは首都圏の走行も多いことから、首都圏運行時の注意事項も定め、ドライバーに共有させています。首都圏の道路は、「道幅が狭く、視界の悪い道路が多い」「時間帯を問わず交通量が多い」「歩行者、自転車、バイクが多い」「信号無視や携帯電話を操作しながらの走行などマナーの悪い自転車運転者がみられる」など、様々な危険があります。そこで、当社では「右左折時の指差呼称確認の徹底」を図るとともに、「サンキュー事故(道を譲られた際に早く行ってしまう)」として、安全確認がおろそかになり発生する事故への注意喚起を行い、交通量の多い首都圏での事故防止を目指しています。

一方、品質面での取り組みとしては、特に社員の身だしなみに力を入れています。社内の制服着用基準を制定し、社員全員に遵守させています。

安全性向上や業務の改善に向けて、社内ルールを制定し、根気よく社員に伝えていくことが我々の使命です。根気よく続けていくことで、ルールが習慣化し、会社の風土としてしっかりと根付いていくのです。

会社で定めたルールを社員全員が守り、安全への取り組みを強化させていくことで、地域に「層愛される会社」となることを目指しています。

安全への取り組みを毎日の点呼で確認

(有)仲幸運輸梱包 代表取締役社長(埼玉県) 田島 秀克



当社では、社内でも最も若い2人の社員を運行管理者に抜擢しています。若い管理者の視点から業務改善に活かされています。また、早く管理者になることで、管理者としての経験を長い期間豊富に積むことが出来るので、当社としては彼らの成長が楽しみます。

当社の安全への取り組みとしては、まず「正しい輪止めの装着」を挙げることが出来ます。それまで当社では安全に関する社内ルールがなかったため、これを「ルール第1号」として社員全員で取り組んでいきました。日々ルールを守り、輪止めを適切に装着することで、社員にとっては当初の「輪止めは面倒だ」という気持ちから「周囲がしていないからこそ装着しよう」「誰よりもこだわってしっかり装着しよう」というように考え方が進化しました。

また、「効果的な点呼の実施」にも力を注いでいます。これまではただ「点呼をした」という記録を残すための表面的な点呼が行われていたが、本来は「ドライバーの記憶に残る」ための点呼をすべきではないでしょうか。当社では、点呼の場で運行管理者がドライバーの体調や心理状況を確認するだけでなく、個々の注意事項を宣言させています。ドライバー自身に考えさせ、毎日の取り組みを宣言させることで、前向きに目標に取り組みもうという

組織が生まれやすくなります。そして、こうした取り組みを継続させることで、安全度の高い運転が

習慣化されていくのです。なお、当社では心の健康管理を通じて内面的な事故防止を図るため、今後もドライバーに対するストレスチェックを継続して行っています。

そして、「デジタルテクノロジーの活用」にも注力しています。運行管理者とドライバーがその日の運行結果について振り返り、事故防止に向けた指導を日々行っています。デジタルによって運転操作などが数値として表れるため、若い運行管理者でも的確にアドバイスすることが可能で

ます。ドライバーに対しては、安全教育計画に基づいて毎月実施するドライバー研修を通じて、社内ルールへの取り組み状況を確認します。研修後には安全への決意を書かせ、それを各自が日々の業務の中で実践するとともに、毎日の点呼において取り組み状況を再確認し、安全性のさらなる向上に繋がっています。

添乗指導では、指導項目を定めています。添乗指導は、ドライバーが日々の取り組みを的確に行っているかを確認する場であるとともに、管理者とドライバーのコミュニケーションを醸成させる場でもあります。両者が協議し、意見を出し合いながら、個々のドライバーのスキルアップを目指しています。

安全は日々の細かい気配りの積み重ねによって成し得るものです。毎日継続することで「安全行動」が蓄積され、「安全習慣」になつていくのです。社内ルールを取り決めて共有し、みんながそれを確実に守ることが、ドライバー自身やその家族、そして会社を守ってくれるのではないのでしょうか。

指差呼称確認の実施が交差点事故を減らす

(株)つばめ急便 専務取締役(大阪府) 並河 憲人



当社では、安全品質を確保するためには「5Sの徹底」が礎であると考え、指差教育を行って

います。第一に取り組んでいるのは「車内清掃車内美化」です。車内が汚い状態では、心に緩みを生み、漫然運転に繋がります。追突事故の原因にもなります。逆に、車内がきれいな状態に保たれているれば運転に集中することができ、的確に安全確認や危機予測をすることが可能となります。

車内には物を置かないように指導しているほか、シートには汚れの付きにくいビニールカバーをかけるなど、清掃しやすい状態にしています。また、車体もきれいな状態を保つ必要があります。車内の整理整頓と洗車整備を念入りに行うことで、運転時に視界不良に繋がるものを排除できるとともに、ドライバーにとっては「この車を大切にしよう」という愛情が生まれてきます。

当社では、デジタルテクノロジーを活用した体系的な安全運転指導を実施しています。まず、営業所では日々の運行が終了した段階でドライバーがデジタルの値をチェックし、自身のその日の運転を振り返り、主体的改善を行います。一方、デジタルのデータは本社に転送されて確認が行われます。改善が求められるドライバーに対しては各事業所に通達され、総合的指導が行われることとなります。指導後、事業所から本社に対して指導結果が報告され、本社ではそれを受けて乗務可否を判断します。なお、デ

ジタルにおける日々の確認事項としては、特に「急」の付く走行を防止するためエンジン回転数は1800rpm以内と定めています。また、交差点での事故を防ぐために、当社では「指差呼称確認の徹底」に取り組んでいます。右折の際には、ミラーやシートの位置を適切に調整し、上半身を動かしてしっかりと目視確認し、ピラーによる死角に潜む危険を回避するために指差呼称し、安全を確認した上でエンジン回転数1800rpm以内を維持しながらゆっくりと曲がっていきます。周りの状況を目視し、指差呼称確認を行う上では、日頃から車内を清潔に保ち、目視できないような状況を作らないことが大切です。また、車両洗浄の際には後輪にもタイヤワックスを塗っています。ワックス時にタイヤの擦り傷があった場合、左折時の確認が不十分だったために縁石に乗り上げて傷付いたことが考えられるため、ドライバーにはより慎重な運転と的確な指差呼称確認の実施が求められます。

これまでに紹介してきた様々な取り組みの継続的な実行を通じて、当社はこれからも、経営トップ、運行管理者、ドライバーが一丸となって「安全に厳しく、人を育てる運送会社」を目指してまいります。

第2分科会

テーマ トラック業界の人材確保 及び育成について

第2分科会は「トラック業界の人材確保及び育成について」をテーマに、各パネリストによるプレゼンテーションなどが行われました。



コーディネーター
日本PMIコンサルティング(株)
代表取締役社長
小坂 真弘

差別化と競争力向上に 直結する人材の確保・育成を

現在、業種間における人材争奪戦は激しくなり、トラック輸送を担うドライバー人材の確保はますます困難な状況に陥っています。できるだけ早く現場に出し、稼げる「即戦力」を採用する傾向があります。一方で、荷主が求める輸送品質を確保するために、人材像と必要なスペックを明確化し、長期的にドライバー人材と中核人材を育成する仕組みづくりをしているケースがあります。高い業績を生み出す運送事業者には、経営者と現場が一体となり、育成目標の共有化、育成手法の標準化にとどまらず、組織への求心力を高め、ベクトルを揃え、さらに一人ひとりの自発性とやる気を引き出している点に特徴があります。こうした点も含め、トラック業界の人材の確保と育成について、3人の社長から話を伺います。



パネリスト(プロフィール)

(株)アクティー	代表取締役社長 喜多 甚一
本社	石川県金沢市専光寺町1-3-18
本資	8,000万円
従業員数	457人
設立	昭和61年9月
車両数	67台
三重執丸(株)	代表取締役社長 寺田 忍
本社	三重県鈴鹿市地子町523-2
本資	5,000万円
従業員数	133人
設立	昭和55年2月
車両数	75台
(有)皆実運送	代表取締役社長 木下 景太
本社	広島県広島市南区出島2-13-41
本資	300万円
従業員数	42人
設立	昭和42年6月
車両数	67台

「人間性重視の採用で未経験者を育成する会社」に

三重執丸(株) 代表取締役社長 寺田 忍



「採る前の苦労か、採った後の悲劇か」——当社が人材の確保採用について重視しているのは、「ミスマッチをなくす」ということです。以前は経験能力重視だった採用を、人物重視に切り替えました。採用基準を「即戦力」ではなく「会社の社風に合った人材」に据え、素直さや笑顔、前向きさに重きを置いています。

採用の中で特に力を入れているのが面接です。今までは現場任せにしがちで、経験者は即採用という形をとっていましたが、ミスマッチをなくすために、まず面接の場で会社を理解してもらおうと心掛け、企業理念や会社のビジョンに共感してくれるかどうかを判断しています。面接時によく話をしておけば、入社後にギャップを感じてすぐに辞めてしまうようなことは防ぐことができるので、自分の会社のよいところも悪いところも、包み隠さず赤裸々に伝えていきます。また、即戦力よりも、将来性のある人材を発掘するという考え、ここ数年は学生の新卒採用に力を入れています。最近の若い方は面接慣れをしていて、なかなか面接で会話をするだけではその人の本質や人となりを見抜くことが難しいです。そのため、当社では型にはまらない面接試験を行っています。その一例が、「お弁当づくり」です。この試験は、何か課題が与えられた時に、それに対して前向きに取り組むことができるかを知りたくて実施しています。面接や試用期間だけではなかなか分からない部分をみるために

「明るい会社」であることが社員の成長・定着のカギ

(株)アクティー 代表取締役社長(石川県) 喜多 甚一



「会社づくりは人が全て」。私が今回一番お伝えしたいことは、この一言に尽きます。

当社では、「優秀な人材を集める」ということはあまり重視していません。できるだけたくさんの人を雇用して、優秀な人材を輩出することをテーマに据えています。入社させることよりも、退社させないことを中心に考えているため、定着率を上げることに對してどのような方策をとるかというのを第二に考えます。人材確保の面では、採用については別段特色のある取り組みをしているわけではありません。「風通しのいい、明るく元気な会社には人が集まる」という考えに基づいて、採用基準は「明るく、元気、素直」な人材であるか、「このことに置いています」「明るく、元気、素直」は当社のブランドパーソナリティです。また、採用時には、コンピュータによる適性診断も行っています。その中で論理性やコミュニケーション能力、ストレス耐性などを判断し、勘案します。

育成面ではおもに、
①社内免許制度
②SR運転診断
③ECOR1グランプリ
の3つの取り組みを行っています。

「社内免許」はドライバー教育のための制度で、会社のトラックに乗るには、この社内免許に合格してもらう必要があります。まず、座学や構内教育に始まり、実車教育を経て、社

分業制と中継輸送でお客様と働き手のニーズを両立

(有)皆実運送 代表取締役社長(広島県) 木下 景太



人材確保に際し、トラック運送業界で大きな課題となっているのが、乗務に付随する「荷役作業」と、長時間労働をはじめとした「労働環境」という2つのハードルです。まずはこれら2つのハードルを下げ、応募の関口を広げよう、というのが当社の考えです。近年、未経験者を採用しても「トラックに乗るだけだ」と思っていたのに、荷役作業もあるなんて、「こんなに勤務時間が長いなんて」と入社後すぐに辞めていくというケースが多々発生しています。こうしたことを防ぐために当社で実施しているのが、「ワークシェアリング」分業制と「中継輸送」です。

新人ドライバーや未経験者に仕事を教える中で、もっとも難しいのは荷役作業です。当社では、荷役作業はドライバーに行わず、荷役作業専門のスタッフを配置する分業制をとり、荷役作業を完全にドライバーから切り離しています。ドライバーは運転のみ、荷役スタッフは荷役作業のみを行う「專業分業制」によって生まれるメリットは、求人募集の際、「荷役作業はほとんどない」という文言を載せられる、ということだと思います。このことにより、「荷役作業はしたくないがドライバー職には興味がある」という人からの応募が増え、関口が広がります。さらに、荷役作業に関する教育を省くことができるため、運転だけに特化した教育を行うことができ、作業

教育期間の短縮が可能になります。そして、最大のメリットとして挙げられるのが「事故率の低下」です。荷役作業と運転に特化したスタッフを配置することで各作業の精度が高まり、また、荷役作業が重労働を伴う場合などには、ドライバーに補助してもらえば、2人で作業を行うこともでき、事故のリスクを軽減できます。当社では、このシステムで行っている搬出入に関して、大きな事故は発生していません。

さらにもう一つのハードルである労働時間の問題について、当社では20年ほど前から中継輸送を導入しています。長距離運行を日帰り運行に作り替え、近距離運行を細かく配分するという手法をとることによって、長時間労働の縮減に成功しています。

運行作業をできるだけ細かく分けることで分業化を行い、その分業したものを組み立てることでモジュール化が可能になります。そこで「どのような人材が、何人必要か」を分析することによって、その結果に基づいた必要な人材の確保を最適な方法で行うことができるのです。

お客様のニーズ(高い品質を誇る運転・荷役作業)と、働き手のニーズ(専門業務のエキスパートがそれぞれの仕事を行う)をマッチさせることで、双方にとってよい状態が生まれます。私たち経営者は、お客様のニーズに応えることは考えていても、働き手のニーズを考えたり、働き手をおろそかにしがちではないでしょうか。私たちがすべきことは、働き手に関する多様なニーズを認識し、「働き手が仕事を続けることができる環境づくり」に努め、さらに次の段階として「日々の業務の中で自発的に次の目標を模索できるフィールド」を提供することであると考える

記念講演

記念講演会では、(株)加賀屋の小田禎彦代表取締役相談役が、「おもてなしの心で世界をねらう」をテーマに講演。「プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」(旬刊旅行新聞主催)において、35年連続で総合トップに輝いている同旅館における様々なアイデアやおもてなしの精神を通じて、事業経営のヒントが紹介されました。



「おもてなしの心で世界をねらう」



NHKの朝の連続ドラマ「まれ」では石川県の輪島市が舞台として取り上げられ、3月には北陸新幹線が開通した。記念すべき20回目の事業者大会を金沢で開催されたことを心から歓迎し、感謝申し上げます。

北陸新幹線が開通し半年が経過し、JRR東日本は当初、関東方面からの来訪者数が2.2倍になるという予想だったが、想定をはるかに上回る3.03倍という数字がでた。このペースでいけば4倍に届くのではないかと、言われています。この現象をブームで終わらせず、富山、長野、新潟まで風を吹かせなければならず、観光業だけでなく、農業、漁業、製造業も絡めていくことが重要だと考えます。

加賀屋は今年で創業109年を迎えました。1906年、祖父の小田興吉郎が農民の生命線である田畑を売り払い、12室30名収容の旅館を建造。お客さま第一主義のサービスを心掛け、「笑顔で気働き」をモットーにしてきました。

95年に在台湾日系企業の喪章旅行を受注し、翌年からはツアーが生まれ、年間1万人、ピーク時は2万人が加賀屋を訪れました。その後、中華民国の李登輝元總統から「日本のおもてなしの心を台湾に持っていきたい」というお言葉をいただき、台湾デベロッパーからの熱いオファーと、李元總統のお言葉をきっかけに、加賀屋の台湾進出を決断しました。IT時代だ

プロフィール

(株)加賀屋 代表取締役相談役 小田 禎彦

1940年2月7日生まれ。立教大学経済学部経営学科卒業。62年、加賀屋に入社し専務取締役、代表取締役社長、代表取締役会長を経て、2014年4月より現職。石川県観光連盟理事長、能登半島広域観光協会理事長、七尾商工会議所特別顧問を務める。03年5月、政府認定の「観光力リスマ」に選ばれる。04年4月、七尾市と姉妹提携をしているアメリカのモンテレー市より、4月28日を「小田禎彦の日」として制定される。15年、加賀屋は旅行新聞社主催の第40回「プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」で35年連続総合1位を獲得。



全体会議

再開後の全体会議では、「荷主との協働による長時間労働の縮減」など8項目にわたる大会決議を、当協会青年部会の坂池克彦部会長が読み上げ、満場の拍手を以って採択されました。



満場の拍手を以って採択されました

力強く決議文を朗読する坂池当協会青年部会長

大会決議

私たちトラック運送事業者は、我が国の国民生活、産業活動を物流面で支えるとともに、災害時には被災地に向けた救援物資輸送の担い手として、重要な使命を果たすべく、日夜懸命に努力している。しかしながら、少子高齢化に伴う若年労働者不足が顕在化し、人材の確保が急務となる一方、多くの事業者が再生産可能な運賃収受ができず、厳しい事業経営を強いられている。

先頃、中央と四十七都道府県に行政や有力荷主の参画を得て、長時間労働の縮減に向け、「トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会」の設置が図られたが、手待ち時間の削減方や付帯業務の有償化方策等長時間労働の縮減に向けて、トラック運送業界の総力を挙げて、取り組んでいかなければならない。

我々は、今後とも、交通事故防止や環境保全に率先して取り組み、社会との共生を図りながら、トラック運送業界の叡智と総力を結集して、これら当面する諸課題に勇気と英断をもって果敢に対応していかねばならない。

このため、本日、第二十回全国トラック運送事業者大会に当たり、我々は、本大会の総意をもって、以下のとおり決議する。

- 一、荷主との協働による長時間労働の縮減
- 一、高速道路料金における大口・多頻度割引最大五十%の恒久化
- 一、参入基準の厳格化等規制緩和の見直し
- 一、自動車関係諸税の簡素化・軽減の実現
- 一、原価管理に基づく適正運賃の収受
- 一、適正化事業の推進による法令遵守の徹底
- 一、交通・労災事故の防止及び環境・省エネ対策の推進
- 一、大規模災害発生時における緊急輸送体制の確立

右、決議する。

平成二十七年十月一日

第二十回全国トラック運送事業者大会

【総合司会】北陸信越ブロックトラック協会	専務理事	浅間 博
〈大会決議〉一般社団法人石川県トラック協会青年部会	部会長	坂池 克彦
〈来賓挨拶〉国土交通省	自動車局長	藤井 直樹
〈来賓挨拶〉石川県	知事	谷本 正憲
〈挨拶〉中国ブロックトラック協会	会長	小丸 成洋
〈ガンパローコール〉一般社団法人石川県トラック協会	副会長	田内満喜夫
〈閉会の辞〉一般社団法人富山県トラック協会	会長	綿貫 勝介



続いて、来賓として谷本正憲石川県知事が祝辞を述べるとともに、国土交通省の藤井直樹自動車局長が太田昭宏国土交通大臣のメッセージを代読しました。また、次年度開催ブロックである中国ブロックトラック協会の小丸成洋会長（広島県トラック協会会長）が、招聘のあいさつを行いました。

その後、当協会の田内満喜夫副会長の音頭により、参加者全員で力強く「ガンパローコール」を行い、最後に富山県トラック協会の綿貫勝介会長が閉会の辞を述べ、大会を締めくくりました。



「長時間労働の縮減、高速道路料金の負担軽減、規制緩和の見直しなど、トラック運送業界が抱える諸課題に対して、トラック運送業界の叡智と総力を結集し、国民生活のライフラインとしての使命を達成するためガンパロー」と声高らかにコールする田内当協会副会長



次年度大会に全力を傾注し、皆様をお迎え

中国トラック協会会長
小丸 成洋



次年度の開催ブロック協会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

全国トラック運送事業者大会は、平成28年10月6日の木曜日に鳥取県米子市で開催いたします。

今回の金沢大会は、会場の収容人数の関係から、初めて従来の運営スタイルとは異なり、全体会議と懇親会の参加人数を分けて実施されました。次年度の会場も収容人員の関係から、今大会と同様の対応になると思いますが金沢大会同様、中国ブロック協会一同、皆様によりご満足いただけるようこれから1年をかけて鋭意準備をすすめてまいります。

皆様ご承知のとおり、鳥取県は日本海を背景に因幡の白兔伝説の舞台と言われる白兔海岸、東西16km、南北2kmにわたる日本屈指の鳥取砂丘、紅葉スポットとして有名な大山などの観光地のほか、皆生、三朝温泉など、県内に10の温泉地を有しており、隣接する島根県には、開湯300年超の玉造温泉があります。

そのほか、蟹や鮭の水揚量で日本一を誇る境港などがあり、観光、味覚の点で十分ご堪能いただけるのではないかと思います。

来年皆様と米子でお会い出来ることを祈念するとともに、米子市へお越しの際には、中国ブロックの島根県、岡山県、広島県、山口県の4県にも是非お立ち寄りいただき、各地の名所・旧跡や日本海、瀬戸内海の豊富な海の幸、山の幸も存分に味わっていただきたいと存じます。

次年度の大会に全力を傾注して、皆様をお迎えすることをお誓い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。皆様、来年の10月6日、米子でお会いしましょう。

一致団結できたことに感謝

一般社団法人富山県トラック協会 会長
綿貫 勝介



本日は、第20回全国トラック運送事業者大会に、このように全国から多数のご出席を賜りまして、

ここ金沢の地に参集し、ガンパローコールをはじめ、会員の皆様で一致団結できたことを心より感謝、御礼を申し上げます。

また、ご来賓の皆様におかれましては、大変ご多忙にもかかわらず、多数のご出席を賜り、貴重なご挨拶をいただいたこと、重ね重ね感謝するとともに、御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

先程、小丸会長からもご案内がありましたように、来年は中国ブロック鳥取県米子市での開催となります。来年、また米子市で皆様にお会いできることを心より楽しみにしております。そのためにも、我々業界がより明るく前進してまいります。改めまして皆様方にご協力を感じ申し上げます。大変僣越ではございますが、閉会のご挨拶とさせていただきます。



懇親会



素囃子

金沢の芸妓たちによって受け継がれてきた「和のオーケストラ」こと素囃子。笛・鼓・三味線の雅やかなアンサンブルが響き渡った

御陣乗太鼓

石川県輪島市名舟町に伝わる「御陣乗太鼓」。奇怪な面を着け、鬼気迫るばちさばきで太鼓を乱れ打つ様に、大きな拍手が湧き起こった



加賀獅子

「蚊帳」と呼ばれる胴体に、大きな獅子頭が特徴の加賀獅子は、太刀を手にした「棒振り」が獅子を退治するまでを描いた勇壮な舞



舞踊

金沢の芸妓衆による舞踊。磨き抜かれた伝統芸と艶やかな着物姿が目を引きました。披露された演目は「金沢風雅」



山野金沢市長の発声で乾杯



大会終了後、会場をANAクラウンプラザホテル金沢に移し懇親会を開催。当協会谷本義治会長が歓迎のあいさつを行い、山野之義金沢市長の発声で乾杯。歓談の輪が広がる中、加賀獅子御陣乗太鼓など石川県の伝統芸能が華を添えました。

ご来賓

石川県警察本部長	森内 彰 様
石川県商工会議所連合会専務理事	宮本 外紀 様
石川県中小企業団体中央会会長	山出 保 様
陸上貨物運送事業労働災害防止協会石川県支部長	中野 廣志 様
全国トラック交通共済協同組合連合会専務理事	和田 敬司 様
(株)商工組合中央金庫資産サポート部長	倉知 宗範 様
いすゞ自動車販売(株)取締役副社長	葛野 正彦 様
UDトラックス(株)代表取締役社長	村上 吉弘 様
日野自動車(株)特販部部長	水野 右 様



司会 フリーアナウンサー 平見 夕紀



閉会のあいさつをする長野県トラック協会の岩下勝美会長



石川県トラック協会会長 谷本 義治

開催地の会長として、北陸信越ブロックトラック協会を代表いたしました。歓迎のご挨拶を申し上げます。

懇親会開催に先立ち行われた、長唄、常盤津、清元などの邦楽や舞踊から囃子のみが独立した金沢の伝統文化の「素囃子」は如何でございましたか。本日は、第20回目の全国トラック運送事業者大会を開催するにあたり、全国より約1,400名余の会員事業者の皆様にご出席を賜り、誠にありがとうございます。北陸信越ブロックトラック協会の4協会を挙げて、心より歓迎申し上げますとともに、このように盛大に本大会が開催出来ましたこと、心より感謝を申し上げます。

本日の大会には、ご来賓の国土交通省自動車局長の藤井直樹様をはじめ、関係省庁の皆様方、さらに石川県知事の谷本正憲様ほか多数のご来賓の皆様方にご臨席をいただきま

て、誠にありがとうございます。

また、大変ご多忙のところ、記念講演会の講師をお務めいただきました、加賀屋相談役の小田積彦様には、厚く御礼申し上げます。

本日の2つの分科会ではコーディネーターパネリストの皆様が熱心なご討議をいただきましたが、分科会のテーマであります「交通安全対策の推進」と「人材確保と育成」は、トラック運送業界が取り組むべき最重要課題でもあります。今後、会員一人ひとりが力を合わせ、トラック運送業界が一丸となった取り組みを実践してまいります。

金沢市は、約400年前に前田利家公が城を定めて以来、加賀100万石の城下町として発展してきました。東茶屋街を代表とする城下町の風情が今も色濃く残り、日本の文化が美しく息づく文字通り日本を代表する観光地の一つであります。折角の機会でもありますので、金沢をはじめとする北陸信越4県の観光、味覚を十分にご堪能いただければ幸いです。

結びになりますが、全日本トラック協会をはじめ、各都道府県トラック協会の今後益々のご発展と、本日もご参会の皆様のご発展とご隆盛をご祈念申し上げます。私の歓迎のご挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。

トラックの森



「トラックの森」づくり事業
 「トラックの森」づくり事業は、地域の活性化に資すること
 を目的として、毎年実施している。今年も、石川フォレストサポ
 ーター会が協賛し、多くのトラック事業者が参加した。本
 事業は「人と自然が共生する社会」の実現に資すること
 として、今後も「人と自然が共生する社会」の実現に資する
 事業として実施してまいります。

平成27年5月
 石川フォレストサポーター会
 公益社団法人石川県トラック協会
 一般社団法人石川県トラック協会

事業者大会前日の9月30日(水)、石川県森林公園(河北郡津幡町)において、全日本トラック協会の星野良三会長はじめ北陸信越プロックトラック協会の会長、副会長などが参加のもと、「トラックの森」植樹式が行われました。式の冒頭、星野会長が「平成15年から環境保全を目的に始めた本事業もここ石川県で13カ所目となった。地球環境を守り育てていくことは我々に課せられた使命であり、本事業を将来の世代に続けていくことは重要である」とあいさつ。続いて、当協会の谷本義治会長が「今年は全国植樹祭が当県で開催された。また、ここ石川県森林公園は昭和58年に全国植樹祭が行われた歴史ある場所である。本日、関係者のご協力も、植樹式が行えることに感謝したい」と謝辞を述べました。



谷本当協会長らによって記念看板の除幕が行われました



記念看板の前に参加者全員で記念撮影



谷本当協会長らの手によってサクラの木が植えられました



植樹式に参加した当協会役員ら(右から)久安副会長、山田副会長、谷本会長、北村専務理事、田内副会長、天田事務局長



星野全日本トラック協会会長



森づくりにご協力いただいた石川フォレストサポーター会の皆さん



「トラックの森」記念植樹 谷本会長挨拶



一般社団法人石川県トラック協会 会長
 谷本 義治

本日は、御多忙のところ、「トラックの森」記念植樹に多数の方に参加いただきました。誠にありがとうございます。

ここ石川県は、南は白山国立公園を中心とする肥沃な加賀平野、北は日本海に突き出た能登半島があり、風光明媚で自然豊かなところがございます。また、今年3月に開通した北陸新幹線の開業効果もあり、県都「金沢」は、日本でも有数の城下町で、歴史の面影を残す一方、近代的な街づくりも進んでお

り、観光客も一段と増え、賑わいを見せております。こうした中、今年5月に、石川県小松市で行われた第66回全国植樹祭は、天皇・皇后両陛下をお迎えし、無事終了したところですが、県内の植樹祭の歴史をたどり、前回行われた石川県内での全国植樹祭は、今から32年前、昭和58年に、「第34回全国植樹祭」として、ここ「石川県森林公園」におきまして開催された歴史ある場所でございます。

今回の「トラックの森」事業につきましては、公益社団法人全日本トラック協会をはじめ、北陸信越プロックトラック協会、公益社団法人石川県緑化推進委員会、石川フォレストサポーター会など、多数の関係者のご協力により、盛大に行うことができました。心より御礼申し上げます。結びに当たりまして、ここに出席の皆様方の益々のご発展と、ご健勝を祈念申し上げます。挨拶に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。